

平成30年度

事業報告書

社会福祉法人 能美市社会福祉協議会

平成30年度事業報告

平成 29 年 4 月の社会福祉法の改正による法人制度改革を受け、本会においても「経営組織のガバナンスの強化」、「事業運営の透明性の向上」等に取り組みました。経営組織の強化を目指し、会員会費募集の推進、事務事業の効率化、また、福祉課題の調査研究として、先進地への役員研修を行ったほか、社会福祉大会の開催を通じ、地域ぐるみでの福祉意識の醸成に努めました。

平成 30 年度は、**第 3 次能美市地域福祉活動計画(以下、「第 3 次計画」という)推進の 1 年目**であり、これまでの取組みを基に能美市の進める「地域共生社会」と連携しながら、**「助けたり、助けられたりの地域づくり」**に取り組みました。1 年目の進捗状況を市民に報告する機会である**「春 まち ほかほか プロジェクト」(以下、「春まちほか P」という)**を 2 月 23 日～3 月 3 日の 9 日間、24 プログラムで開催しました。また、1 年目の取組みに対する**評価委員会**を 3 月 20 日に行い、各委員会からの自己評価と今後に向けての取組みを確認、総合評価としました。**(評価委員会の評価は別途)**

そして、能美市(以下、「市」という)からの受託事業として 2 年目とする**「我が事・丸ごとの地域共生社会づくり事業」**については、市内における**地域福祉活動の基礎組織として、町会・町内会に設置された地域福祉委員会**が、町会・町内会長を中心とし、民生委員・児童委員、福祉推進員等が、同じ町会の中で、生活上の困りごとの課題や個別の支援について、話し合い、力をあわせて、**見守りや助け合いの活動**に取り組んでいただいております。本会としては、研修の開催や活動に対する助成等を通じ、支援をしてきました。

「地域力強化推進事業」では、地域福祉委員会の活動を支援する担当職員(**CSW=コミュニティソーシャルワーカー 以下、「CSW」という**)を担当制で配置したことにより、CSW が積極的に地域に出向き、全地域福祉委員会の活動の状況を掴むことができました。また、さらに町ごとの課題、どんな取組が必要かということをも明らかにするため、地域福祉委員会へのアンケート調査を行いました。

アンケート調査の結果については、各地域福祉委員会が、自らの見守りや助け合い活動の状況や個別の生活課題を理解し、解決に向けて行動するための参考データとして活用していくため、引き続き、CSW が地域に出向き、地域福祉委員会の運営の強化及び主体性を尊重しながらの助け合いや支え合いの活動が充実するよう支援していきます。

また、市内の社会福祉法人や企業等にも、この助け合いや支え合いの活動に参加して頂きたい、今後は、意向調査等に取り組み、働きかけをしていくこととします。

寺井地区をモデルとして受託した**「多機関の協働による包括的な相談支援体制の構築事業」**については、高齢、障がい、生活困窮等の包括的な相談窓口として、様々な相談を受けてきました。特に精神障害、アルコール中毒、8050、支援拒否など困難な課題を持つ相談が多く、専門機関、相談機関によるネットワークでの包括的な支援が必須である

ことやそのための体制づくりについて、市へ各データーの提供等を行いました。

相談支援包括化推進員は、高齢者支援センター職員や障がいの自立支援相談員等に対し、包括的相談支援体制の構築にかかる研修会の開催を通じ、課題の抽出、整理を行い、あわせて、各機関が連携を強め、包括的な相談支援が進められるよう、ネットワークづくりにも取り組みました。

新規に受託した「**生活困窮者自立相談支援事業**」を中心とした「くらしサポートセンターのみ」ですが、各制度の隙間にも入り込むような支援、当事者への傾聴等による寄り添い等信頼関係と継続的な支援が必要なことも事業を実施して痛感したところです。

現在は、高齢者支援センター、医療機関、消費生活相談室、弁護士、福祉事務所、ハローワーク等との連携、石川県社会福祉協議会より受託した「**福祉サービス利用援助事業**」との連携から、支援体制のネットワークが徐々に広がってきています。

また、地域の中で、孤立、閉じこもり、未就労から生活困窮状態につながっていく流れも見え、「**ふれあい相談員**」が、町会長、民生委員・児童委員と連携し、市営住宅等を対象に閉じこもりの方々等の実態把握等、安否確認を進めているところです。

次に、ボランティアセンターの運営では、H30年度は災害時に設置される災害ボランティアセンターについて、石川県民交流センターや能美市民防災ネットワークとの共催による研修会の開催、石川県社会福祉協議会が主催する災害ボランティアセンター運営研修への参加など、いざという時のセンター運営に関する体制や運営のノウハウ等の情報収集等に取り組みしました。

ファミリー・サポート・センターの運営では、個別の支援として、仕事と子育ての両立に困難を抱える世帯に対し会員の派遣とあわせて傾聴、見守り等の支援も行いました。

ヘルパーステーション能美については、平成30年5月末日をもって廃止としました。これまでも報告しております通り、利用者については、ケアマネジャーを通じ、それぞれ別の事業所に引き継ぐことができました。

能美居宅介護支援事業所ですが、質の高いケアマネジメントを提供できるよう、事業所としての質の向上に努めてきました。くらしサポートセンターのみ、各高齢者支援センター、地域と連携を深めながら、困難ケースを積極的に受け入れ、社会福祉協議会の在宅サービスの一環として、地域の福祉に貢献することができました。

上記のとおり、「**地域力強化推進事業**」、「**多機関の協働による包括的な相談支援体制の構築事業**」、「**生活困窮者自立相談支援事業**」を軸としながら、**ボランティア・コミュニティ活動支援センター**、**ファミリー・サポート・センター**による福祉教育、福祉意識の醸成、自助互助による助け合い、ふれあいとつどいの場づくりの各事業を、計画どおり実施することができました。能美市が目指す「地域共生社会」を更に推進することができたと考えています。

平成 30 年度における事業の状況は、次のとおりであった。

Ⅰ. 住民参加による福祉のまちづくりへの働きかけ

(1) 理事会、評議員会、各種委員会の開催

①理事会（3 回）、評議員会（3 回）、評議員選任・解任委員会（2 回）、監査会（1 回）をそれぞれ開催した。

会議名	開催回数	開催日	開催場所	案件
理事会	第 56 回	5 月 30 日	ふれあいプラザ	①理事候補者の選定について ②専務理事の選定について ③評議員の選任候補者の推薦について ④第 4 回評議員選任・解任委員会の招集について ⑤第 54 回評議員会（定時評議員会）の招集について ⑥平成 29 年度会計収支補正予算の専決報告について ⑦平成 29 年度事業報告、会計計算書類及び財産目録の承認について（監査報告）
	第 57 回	2 月 26 日	ふれあいプラザ	①理事候補者の選定について ②第 55 回評議員会の招集について ③評議員の選任候補者の推薦について ④第 5 回評議員選任・解任委員会の招集について ⑤平成 30 年度会計収支補正予算（案）について
	第 58 回	3 月 20 日	ふれあいプラザ	①平成 30 年度会計収支 2 次補正予算（案）について ②平成 31 年度事業計画（案）及び会計収支予算（案）について ③第 56 回評議員会の招集について

評議員会	第 54 回 (定時)	6 月 19 日	ふれあいプラザ	①理事の選任について ②平成 29 年度会計収支補正予算 の専決報告について ③平成 30 事業報告、会計計算書類 及び財産目録の承認について（監 査報告）
	第 55 回	3 月 5 日	ふれあいプラザ	①理事の選任について ②平成 30 年度会計収支補正予算 （案）について
	第 56 回	3 月 27 日	ふれあいプラザ	①平成 30 年度会計収支 2 次補正予 算（案）について ②平成 31 年度事業計画（案）及び 会計収支予算（案）について
評議員選 任・解任 委員会	第 4 回	6 月 5 日	ふれあいプラザ	} 評議員の選任
	第 5 回	3 月 13 日	ふれあいプラザ	
監査会	5 月 21 日		ふれあいプラザ	平成 29 年度監査

ア 10 月 12 日（金）、役員等視察研修とし、京都府綾部市社会福祉協議会で、住民参加のワンストップの総合相談体制を研修した。理事・評議員 14 名が参加した。

イ 2 月 17 日（日）、ホテル日航金沢で、本会の山本多津子副会長の藍綬褒章受章を祝う会が開催され、理事 8 名が出席した。

②第 3 次計画の推進委員会及び評価委員会等を開催した。

ア 推進のための委員会

- ・ここに寄り添い合う人づくり委員会・・・9 回開催
- ・見守り・助け合い推進委員会・・・8 回開催

イ 進捗状況を確認し合うための委員会

- ・ここら豊かな地域づくりの会・・・3 回開催

ウ 年度ごとの推進状況の評価するための委員会

- ・評価委員会・・・2 回開催

③ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会を開催した（3 回）

④ファミリー・サポート・センター運営委員会を開催した。（3 回）

⑤表彰審査会の開催（社会福祉功労者等表彰・能美たすかったわ～大賞・能美ぽかぽかフォトコンテスト）

(2) 会員会費の募集

①会員会費の募集（7 月推進月間）に取り組み、まちぐるみで地域福祉活動を進める気運を盛り上げた。・・・資料 1

(3) 社会福祉大会の開催

第14回能美市社会福祉大会を開催し、地域福祉活動に功績のあった個人や団体に社会福祉功労者等表彰を授与し、地域ぐるみの福祉意識の気運を盛り上げた。

(第11回能美市民ボランティアフェスティバルと同日同会場開催)

- ア 月 日 8月5日(日)
- イ 会 場 根上総合文化会館
- ウ 社会福祉功労者等表彰を33名4団体に授与
- エ 参加者 350名

(4)能美市第3次地域福祉活動計画の推進

3次計画の推進1年目の取り組みを市民の参加と協力を得て委員会を構成し、推進した。各委員会による自己評価と2つの委員会がそれぞれ評価し合い、その結果と評価委員による評価をもって、評価委員会の総合評価としてまとめ、理事会・評議員会で報告を行った。

(5)春まちぽかPの開催(2月23日(土)~3月3日(日)の9日間)

第3次計画の推進1年目の報告及び、市民の地域福祉やボランティアの活動を紹介する機会として、春まちぽかPと銘打ち、24のプログラムで開催した。延べ1,828名の参加であった。(第58回理事会・第56回評議員会で報告済み)

- ①春まちぽかPの最終プログラムとして、3月3日(日)、「地域福祉のつどい」(寺井地区公民館)を開催、各プログラムの主催者からの報告と、計画を推進する2委員会委員長による「福祉の人づくりや支え合いの地域づくりにむけて」のメッセージを発信した。
- ②地域福祉活動団体やグループ等がプログラムを計画、主催し、地域福祉・ボランティア活動を紹介、報告した。
- ③プルタブの換金による車いすの贈呈は今年度なし。
- ④「能美たすかったわ〜大賞」は、大賞1点、最優秀賞2点、小学生の部最優秀賞5点を表彰した。
- ⑤「能美ぽかぽかフォトコンテスト」は、ぽかぽか賞1点、あったか賞2点を表彰した。

(6)福祉、ボランティア情報の発信

- ①広報誌「ほほえみ」(年4回)ほほえみ52号から55号を発行した。
- ②地域福祉・ボランティア活動報告集を発行した・・・資料2
- ③ホームページ(アドレス <http://www.nomi-shakyo.jp/>)を随時、更新し運営した。

(7)愛の福祉基金事業の運営

市民の善意による寄付金(11件総額621,900円)を愛の福祉資金として積み立てた。

II. 社会福祉関係者が一体となった地域福祉活動への支援

(1) ⑨ 住民が行う地域福祉活動を支援した(⑩ CSW (ふれあい相談員兼ねる) の配置)

〈地域福祉委員会〉

①	地域福祉委員会の設置にかかる助成	根上地区 21ヶ所 寺井地区 23ヶ所 辰口地区 47ヶ所	91ヶ所	総額 910,000 円を助成
	活動ヒント探し 講座入門編の開催	7月20日～10月26日 (月1回全4回)	地域福祉に対する理解のための入門的研修及び実習	26町(内)会より、講座受講修了者40名を地域福祉委員会活動推進員に登録した。 ※登録累計311名
	活動ヒント探し 講座実践編の開催	9月11日～11月13日 (月1回全3回)	各町(内)会・町内会で地域の課題把握のための手法として「住民流支え合いマップづくり」を実習 (講師:住民流福祉総合研究所長 木原孝久氏)	地域福祉委員会活動推進員のいる町(内)会のうち10町(内)会20名が受講した。 ※福岡町、下ノ江町、寺井町山道、和佐谷町、灯台笹町、大口町、長滝町、岩内町、山田町、館町)
	活動推進会議の開催	1月27日 寺井地区公民館	参加した活動の充実のための協議と情報交換の機会として開催 ※能美市の地域包括ケアシステム構築の体制、地域の助け合い活動についての基調講演(講師:同志社大学社会学部教授 永田祐氏)	これまでに実践編を修了した地域福祉委員48町(内)会から149名参加 ※大成・西任田・浜・山口・中庄・西二口・五間堂・道林・吉原・大浜・中・赤井・高坂根上・福島・寺井九谷・泉台・寺井横・新保・東任田・栗生・牛島・吉光・末信・大長野・佐野・寺井中・緑・小長野・湯谷・秋常・緑が丘・松が岡・宮竹・和気・三ツ屋・鍋谷・火釜・岩本・下開発・来丸・三ツ口・倉重・下徳山・荒屋・和光台・寺畠・金剛寺・仏大寺

②	いきいきサロン活動への助成 ※いきいきサロンとは町(内)会、町内会単位で行われている高齢者等の閉じこもりの予防や見守りのつどい	根上地区	設置数 20 ケ所 開催回数 364 回 延べ参加者数 6,797 名 延べボランティア数 2,329 名
		寺井地区	設置数 21 ケ所 開催回数 448 回 延べ参加者数 7,576 名 延べボランティア数 1,791 名
		辰口地区	設置数 38 ケ所 開催回数 391 回 延べ参加者数 6,036 名 延べボランティア数 1,583 名
		会員会費を財源とし、いきいきサロン 79 ケ所へ、 総額 3,376,300 円を助成	
	一人暮らし高齢者昼食会への助成	地域福祉委員会(いきいきサロン)が自治公民館等を会場に開催する一人暮らし高齢者昼食会に対し、助成した。	実施町会 46 町会 参加者数 400 名 対象者 1 名あたり 700 円を助成、総額 280,000 円を助成
	おでかけサロンへの助成	地域福祉委員会(いきいきサロン)で一人暮らし高齢者を含む参加者同士が、交流しながらおでかけする機会に対し、助成した。	実施町会 36 町会 参加者数 864 名 1 町会年 1 回 6,500 円を助成、総額 234,000 円を助成
③	いきいきサロンボランティア研修会の開催	テーマ：認知症の方でも参加できるいきいきサロンについて考えよう 日時：2 月 28 日(木) 場所：寺井地区公民館	参加：75 名
④	福祉推進員の委嘱と研修	任期 2 年で 127 名を委嘱(任期 令和 2 年 3 月 31 日まで) 福祉推進員の連絡会に向けた準備会 2 回を開催した。	活動費 1 人当たり 5,000 円、総額 635,000 円を助成
⑤	地区担当職員(CSW・ふれあい相談員兼ねる)6 名の配置(兼務) ※地区担当制	ア 各地域福祉委員会の運営、住民流支え合いマップづくり、地域福祉委員会アンケート調査等を支援した。報告のあった地域福祉委員会の会合 688 回の内、要請に応じ CSW は 145 回出務した。 イ 地域福祉委員会で行う見守り活動についての意識の啓発と併せて、見守りのチェックリストを能美市地域福祉活動計画見守り・助け合い推進委員会と共に作成した・・・資料 3 ウ ふれあい相談員として、三ツ屋町市営住宅の要援護者の実態把握、(民生委員・児童委員の見守り安心マップの調査に同行)、能美資金の借入者の実態把握のための訪問、民生委員児童委員と共に歳末お見舞金の贈呈訪問等を行った。53 回出務した。	

〈民生委員児童委員協議会〉

- ①市及び3地区の単位民児協の事務局を担当し、活動を支援した。

〈福祉団体、福祉活動グループ〉

- ①福祉団体（市・3支部の老人クラブ連合会、市・3支部の身体障害者福祉協議会、市母子寡婦福祉連合会）の各事務局を担当し、活動を支援した。
②地域福祉活動を推進するグループや団体の事務局を担当し、活動を支援した。

ア まだまだ元気な高齢者サポートグループほがらか会（会員数33名）

※ほがらか会は、能美市の総合事業の通所B（住民主体の通いの場）にあたる活動
タウンミーティングへの参加や研修会等の開催 2回
ほがらか会の開催状況は以下の

	施設名	開催日と開催回数	延べ参加者数	延べ出務 ボランティア数
根上会場	白寿会館	毎週木曜日・47回	385名	189名
寺井会場	亀齢荘	毎週金曜日・48回	214名	94名
辰口会場	辰口福祉会館	毎週火曜日・50回	288名	104名

イ 能美市民防災ネットワーク（委員14名）

※町会・町内会、壮年団、婦人会、民生委員、児童委員、防災士、子育て支援団体等によるネットワークの会。防災意識の醸成や啓発、助け合いを基盤とした災害時の災害ボランティアセンターの周知などを目的とした活動を行う。

定例会 8回

自主研修会 1回（能美市社協と共催）

市民向け啓発研修会 1回（春まちぽかPの中で開催）

- ③生活支援のサービスを行う団体、NPO法人等の地域福祉活動（支え合い活動）を支援し、共同募金を一部財源にし、助成をした。

助成団体・・・認定NPO法人えんがわ・商工女性部まちづくり研究会

〈福祉施設、福祉事業所等〉

- ①地域と連携するための情報交換会を開催した。

日時：2月25日（月）（春まちぽかPの中で開催）

会場：ふれあいプラザ

講演会：「ごちゃまぜのススメ」

講師：社会福祉法人佛子園シェア金沢施設長 清水愛美氏

参加者：38名

- ②福祉・介護に関する知識の研修会を開催した。

ア 石川県社会福祉協議会主催の南加賀地域共生フォーラムに併せて開催した。

日時：2月15日（金）

会場：小松市民センター

講演会：オール福祉関係者による住みよいまちづくりを考える

～「法人間連携による地域における公益的な取り組み」～

講 師：大阪教育大学教育学部教授 新崎国広氏

参加者：能美市からは 38 名

イ 能美市内 8 社会福祉法人の連絡会に向けた準備会を開催した。

日 時：3 月 1 2 日（火）

会 場：ふれあいプラザ

（2）生活支援体制の基盤整備の推進

①生活支援コーディネーターを 7 名配置した。

1 層（市全体を単位とする）生活支援コーディネーター 1 名と 2 層（中学校区を単位とする）生活支援コーディネーター 6 名の計 7 名を配置し、毎月、生活支援コーディネーター連絡会を開催し、生活上の困りごとの把握や助け合い活動についての情報交換を行った。（2 層の生活支援コーディネーターは、市社協地区担当 CSW3 名と 3 地区高齢者支援センター等の職員 3 名による 6 名）

②生活支援サービス推進協議体（委員 15 名）の運営と活動報告会を開催した。

生活支援サービス推進協議体（4 回開催）の経過報告と、市民への啓発として、「生活支援の助け合い」についての事例を紹介する等の報告会を開催した。

日 時：2 月 23 日（土）（春まちぽか P の中で開催）

会 場：ふれあいプラザ

内 容：コラボで地域の問題解決～下ノ江町や高坂町地域福祉委員会と社会福祉法人施設、活動団体がつながって～

参加者数：100 名

（3）ふれあいの場づくりの推進

①親子サロン（親子がふれあう場づくり）を開催した。

市内 3 会場で、就学前の子どもとその親・祖父母等が、気軽にふれあい、ほっとできるような集う場を運営した。子育て経験をもつ市民 6 名をスタッフとして雇用し、経験を活かしてママ友相談も併せて行うなど、企画運営をした。

	施設名（会場）	開催日と開催回数	延べ参加者数
根上会場	西二口町公民館 （西二口コミュニティセンター）	毎週水曜日・45 回	747 名・354 組の親子
寺井会場	栗生町コミュニティセンター	毎週木曜日・43 回	600 名・275 組の親子
辰口会場	岩内コミュニティセンター	毎週火曜日・45 回	919 名・445 組の親子
通常の親子サロンの拡大版として年 3 回、絵本カフェやのみんな広場を開催した（カフェと絵本コーナー、ふれあいスペースの設置）			
・ 6 月 9 日 ふれあいプラザで開催			
・ 12 月 8 日 G-ヒルズで開催			
・ 3 月 2 日 ふれあいプラザ（春まちぽか P の中で開催）			
			延べ 494 名参加

②ほっとあんしんサロン（介護をしている（していた）方々の思いを語り合う場づくり）を開催した。

介護者の日頃の介護に対する思い、老年期を迎える不安等について、思いを語り合う機会として、年12回、毎月第2水曜日にふれあいプラザで開催した。能美市介護を考える会の協力を得て開催、延べ参加者は118名であった。

③福耳ネット、ぬくもりサロン（聴覚・視覚等コミュニケーションに不都合な方がふれあい集う場づくり）を開催した。

サロン	開催日 開催回数	会 場	延べ参加 者数	内 容
聴覚に障害のある 方のつどい： 福耳ネット	第4水曜日 年12回	寺井地区公民館	79名	交流と情報交換 要約筆記サークルみ みずくの協力
視覚に障害のある 方のつどい： ぬくもりサロン (年4回)	10月29日（月） 11月20日（火） 1月25日（金）	ふれあいプラザ Gーヒルズ ふれあいプラザ	35名	交流と情報交換 福祉ボランティアほ おずきの協力

④老人福祉センター（老人福祉センター「白寿会館」・寺井老人福祉センター「亀齢荘」）を運営した。運営状況は以下のとおり

	開館日数	延べ利用者数
白寿会館	257日	23,035名
亀齢荘	330日	36,258名
合 計	587日	59,293名

その他、亀齢荘では、初の試みとして、2月28日（木）（春まちぽかPの中で開催）、ぽかぽかミニコンサートを開催した。うめの木学園によるパンとコーヒーの販売でふれあい喫茶も併せて行った。

⑤ふれあい福祉運動会の開催（7月1日（日）根上総合文化会館円形ホール）

・・・資料4

能美市身体障害者福祉協議会、能美市手をつなぐ育成会、グループホーム連絡会による実行委員会形式で開催した。（準備会1回、実行委員会3回）

日 時：7月1日（日）

会 場：根上総合文化会館円形ホール

内 容：レクリエーションを通じた、ふれあい交流

参加者数：424名

⑥福祉バスの貸出

福祉バス2台を地域福祉委員会いきいきサロンが実施する一人暮らし高齢者等のおでかけサロンや、身体障害者福祉協議会の外出の支援等に貸し出し、外出の機会を支援した。計61回貸出した。

⑦でこぼこサロン（障がいの有無にかかわらず、地域でふれあい、交流する場づくり）を能美市地域福祉活動計画のところに寄り添い合う人づくり委員会と共に、

企画、実行した（春まちぽかPの中で開催）

日 時：10月5日（金）障がい福祉サービス事業所一歩

12月12日（水）社会福祉法人陽翠水Gーヒルズ

2月24日（日）寺井地区公民館

内 容：フライングディスクやミュージックケアを通じた交流と意見交換

参加者数：延べ196名

（４）民生委員児童委員、ボランティア等と協力、連携を図りながらの見守り、相談活動や生活支援活動

①歳末お見舞金を贈呈した。

民生委員児童委員協議会とCSWが連携し、歳末時に各種福祉手当の受給者や施設入所者、生活に困窮している方が等にあたたかいお正月を迎えて頂くために、訪問し、お見舞金を贈呈した。

実施期間：12月10日～12月31日

贈呈金額：総額1,530,000円（一律5,000円） 306件

②ボランティアによる手づくりお弁当を配達し、見守りを行った。（市内3会場にて調理）民生委員児童委員協議会等と連携し、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯、障がいのある方、産前産後の方のいる世帯等に対し、1食200円で月6回、ボランティアによる手づくりお弁当を配達し、見守りをした。

ふれあい弁当の実施 ※ボランティアによる手作り弁当をボランティア等が届けることを通じて、地域の見守りの機会とした。民生委員児童委員、福祉推進員、ボランティア等の協力を得て実施	根上地区	月2回（第2・第4金曜日）	21回開催
		延べ提供食数	249食
		延べ協力ボランティア数	338名
	寺井地区	月2回（第1・3水曜日）	22回開催
		延べ提供食数	589食
		延べ協力ボランティア数	390名
		（寺井高校JRC部30名含む）	
	辰口地区	月2回（第2・4火曜日）	19回開催
		延べ提供食数	360食
		延べ協力ボランティア数	441名
	子育て応援弁当として、産前～産後2ヶ月までのママとその家族に届け、子育てを応援した。（要件有）		
		基本月6回計	59回開催
		利用実人数	22名
		延べ提供食数	312食

	学習応援弁当として、小学校 4～6 年生と中学校 3 年生の夏季・冬季の休暇にあわせた学習支援の場に、手作り弁当を届け、応援した。(要件有)
	実施回数 年 4 回 利用実人数 24 名 延べ提供食数 24 食
	「ひな弁当・もみじ弁当」とし、市内 3 中学校のボランティア活動の機会とし、一人暮らし高齢者等宅に手作りお弁当を届け、友愛訪問とした。 根上中学校 2 月 22 日実施 34 名参加 寺井中学校 11 月 21 日実施 61 名参加 辰口中学校 2 月 27 日実施 64 名参加

③視覚障害のある方への広報「のみ」等の音訳テープを提供した。

音訳テープの提供	視覚に不都合のある方に対し、音訳ボランティアたんぽぽの協力を得て、広報のみ、議会だより、社協広報誌ほほえみ、ボランティア情報誌ボラはあとをテープに音訳、提供した。	利用者 4 名 その他図書館などへ提供
----------	---	------------------------

④一人暮らし高齢者等への傾聴ボランティアを派遣した。

傾聴ボランティアの訪問	石川県が、H23 年度に開催した傾聴ボランティア養成講座の受講修了生が、能美市で傾聴ボランティアとして登録、活動した。 また、傾聴ボランティア「うなづき」として、年間 2 回のフォローアップ講座や市民向けの啓発講座開催に協力した。	訪問対象者は 8 名（一人暮らし高齢者等） 登録した傾聴ボランティアは 35 名 年間 54 回訪問
-------------	--	--

⑤子育て応援ヘルパーを派遣した。

子育て応援ヘルパーの派遣(利用要件有)	産前の体調不良の時期、または産後間もない時期等に家族から支援を受けられない方等に対し、母子保健コーディネーターと連携し、家事や育児の手伝いを行う子育て応援ヘルパーを派遣した。	ヘルパー登録人数 22 名 利用実人数 6 名 延べ利用日数 89 日
---------------------	---	--

(5) ㊦生活困窮者への支援

CSW が、NPO 法人等と協力し、見守りと生活実態を把握しながら必要な方々に食糧の支援を行った。(くらしサポートセンターのみで再掲)

Ⅲ. 地域福祉活動をすすめる福祉教育の推進と住民相互の援助活動の支援

(1) ボランティア・コミュニティ活動支援センターの運営

ボランティア・コミュニティ活動支援センターを運営し、福祉の人づくりや地域づくりを進めた。(ホームページ 能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター(<http://nomi-vc.net>) の運営やボランティアセンターだより(毎月1回)を発行し、ボランティアに関する情報を発信した。

① ボランティアに関する相談窓口

〈登録〉 97グループ 3,953名 (H31.3.31現在)

〈相談・斡旋〉 78件

	斡旋先 相談の内容	地域福祉委員会 いきいきサロン	福祉 施設	保育園 学校等	企業 団体	その 他	件数 合計
1	イベントにかかる活動	35	9	3			47
2	高齢者・障害者への支援 にかかる活動		1		1		2
3	子育て支援にかかる活動				1		1
4	福祉教育にかかる活動			9	1		10
5	環境保全にかかる活動				7	1	8
6	国際交流にかかる活動				1		1
7	その他					9	9
	合 計	35	10	20	4	9	78

〈ボランティア機材の貸出〉 106件

	貸出先	機 材	件数
1	町(内)会の夏祭りや地域福祉委員会いきいきサロン	綿菓子・ポップコーン・かき氷製造器・プロジェクター、ストラックアウト等	54
2	要介護者の移動	車いす	10
3	学校等での福祉体験	車いす	5
4	ボランティアグループの活動	アンプ、マイク、DVD	8
5	その他		29
	合 計		103

〈各種の収集窓口(ボックス)の設置〉

老人福祉センター「白寿会館」、老人福祉センター「亀齢荘」、G-ヒルズ、ふれあいプラザに収集窓口としてボックスを設置した。

収集物	収集取扱い団体	送付先	使途
エコキャップ	障害者サービス事業所「一歩」	日本委員会(JVC) ～世界の子どもにワクチンを～	エコキャップ800個で子供1人のポリオワクチンになる。

		積水樹脂株式会社へ	細かく粉砕し、リサイクル製品に生まれ変わる。
プルタブ	能美市社会福祉協議会 ボランティア・コミュニティ活動支援センター	H30 年度に集めたプルタブは、 <u>合計 373 kg</u> 金属廃品回収業者に売却、換金し、施設等に車いすを購入するための資金として積み立てた。	
ベルマーク	ボランティアグループ 「山ぼうしの会」等	ベルマーク財団へ	ベルマークは1点1円になる。一部は発展途上国の教育支援に使われ、一部が集めた地域の学校教育備品の購入に使われる。
使用済インクカートリッジ	石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター	キヤノン・エプソン・リコーなどの企業へ	使用済インクカートリッジの回収を通じて、ベルマーク運動に参加。使途はベルマークに同じ。
古切手、書き損じハガキ		公益財団法人ジョイセフ（家族計画国際協力）へ	アジア・アフリカ中南米の発展途上国の保健活動（予防接種や保健師の活動）の助成に使われる。
使用済プリペイドカード等			

②ボランティア講座の開催

各種ボランティア講座を開催し、ボランティアへの関心を掘り起こし、その活動を支援した。

事業（講座）名	実施月・回数	参加人数	内 容
ジュニアボランティア クラブ・・・資料5	10～12月 (全5回)	計26名 延べ85名	市内で活動するボランティアグループや福祉施設等の協力を得て、小学生と高齢者とのふれあいボランティア体験を実施した。
中学生ボランティア チャレンジ体験	7月～8月 (全3回)	延べ80名	中学校生徒会が連携し、意見交換会を開催、自分たちで体験の企画をした。 ①根上中学校（7月28日） 「We are 松々レンジャーズ！！大きな松を育てマツ」 ②寺井中学校（7月21日） 「てらクリ～他のどの団体よりも確実にゴミを拾います」 ③辰口中学校（7月29日）雨天中止 「Lets' make beautiful river」 ④「第11回能美市民ボランティアフェスティバルの運営スタッフ体験」（8月5日）

高校生ボランティア チャレンジ体験	8月～12月 (全2回)	延べ27名	①「福耳ネットの皆さんと手話等で 交流しよう(体験)(12月19日) ②第11回能美市民ボランティアフ ェスティバルの運営スタッフ体験(8 月5日) ※石川県社協サマーボランティア体 験にあわせて実施
企業ボランティアセ ミナー(春まちぽかP の中で開催)	3月1日	のみ商業協同組合 27名(関心のある市民含む)	聴覚に障がいのある人とのコミュニケーション について(講師:能美市聴覚がい者と共に歩む会 手話通訳対策部長 新田照予氏)

③ボランティア保険加入を助成した。

ア ボランティア保険 3,093人 総額1,083,060円

A保険に加入(掛金350円 市社協150円と県社協が200円を負担)

そのうち、災害ボランティア保険に2名加入 1,210円を助成

イ ボランティア行事用保険 24件 総額100,985円

A保険とB保険(宿泊を伴う行事)に加入

④ボランティアグループを助成した。(1グループ 上限5万 要件有)

10グループに対し350,000円を助成した。(共同募金財源による)

ラゼールクラブ(37,000円)、てらい愛唱会(47,000円)、能美美育ネットワーク
(47,000円)、加賀佐野小町(26,000円)、手話サークルめだか(28,000円)、明日
に向かってやってみよう会(19,000円)、Nomi国際交流協会(47,000円)、
のみの子育てネットワーク(47,000円)、ウクレレサークルnomilele(47,000円)、
おはなしの会Twinkle(5,000円)

⑤ボランティア連絡協議会の活動助成と活動を支援した。(共同募金財源による)

能美市ボランティア連絡協議会(市・3地区)の活動を事務局として担当、支援し
た。(能美市ボランティア連絡協議会情報誌「ボラはあと」の年2回発行支援含む)

⑥福祉協力校に指定、活動助成をした。

ア 市内7小学校、3中学校、1高等学校を対象とし、総額870,000円を助成
した。(うち、宮竹小は県社協の福祉協力校の指定)

イ 福祉協力校連絡会を開催した。

日 時:8月23日(木)10時～11時45分

会 場:ふれあいプラザ

参加者:29名

講 演:「能美市手話言語条例を基に共生社会の視点を養う」

講 師:金沢大学人間社会研究域人間科学系

准教授 荒木友希子氏

ウ 福祉協力校における福祉教育カリキュラムなどに情報提供するなどし、支援
した。(講師の派遣、情報提供)

⑦ボランティアセンターだよりを発行した

ア 社会福祉協議会広報誌ほほえみに併せ、年4回発行した。

イ ボランティアだよりを毎月発行、市内の公共機関やスーパー等に配付した。

⑧災害ボランティアセンターの情報収集をし、その運営に備えた。

災害時に設置する災害ボランティアセンターにかかる研修会に参加し、情報収集を行った。

ア 石川県災害ボランティアコーディネーター養成研修を共催した。

日 時 6月9日(土)～10日(日)

場 所 能美市防災センター

イ 石川県民ボランティアセンター、石川県社会福祉協議会ボランティアセンター等が開催する研修会に参加した。

ウ 7月豪雨災害にかかる広島県呉市災害ボランティアセンターに職員1名を派遣した。(9月5日～10日まで 石川県社会福祉協議会より要請)

エ 能美市民防災ネットワーク主催の研修会を共催した。

日 時 11月6日(火)

場 所 寺井地区公民館

講 演 「地域と災害ボランティア～上手な連携を考える」

講 師 NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワーク

理事長 李 仁鉄氏

⑨第11回能美市民ボランティアフェスティバルを開催した・・・資料6

ア 8月5日(日) 根上総合文化会館 約1,000名の参加

イ 実行委員会開催数は10回(準備会、報告集編集委員会含む)、実行委員会委員数は43名、参加団体数は90団体

⑩喫茶「あい・テラス」を年2回開催した。(8月4日と2月23日(春まちぽかPの中で開催))

ボランティア体験、ボランティア活動報告、福祉施設利用者の作品展示と販売、能美市内小中学校のボランティア活動体験の掲示、障がいのサービス事業所による喫茶コーナーやパン・ケーキの販売などを行った。

(2)ファミリー・サポート・センターの運営・・・別記1

Ⅳ. 生活上の多様な問題の相談窓口の開設

(1) ㊦寺井あんしん相談センター(寺井高齢者支援センター)の運営・・・別記2

(2) ㊦くらしサポートセンターのみの運営・・・別記3

Ⅴ. 介護保険等の在宅サービス及び住民主体による生活援助サービス・活動の

提供

(1) 能美市社会福祉協議会ヘルパーステーション能美の運営

(2) 能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所の運営・・・別記4

(3) 福祉移送サービス

公共交通機関を利用しにくい方の移動を車いす対応車で支援した(要件有)

当該年度末登録者数	21名
延べ利用回数(片道を1回とする)	165回
稼働実日数	75日

(4) 生活支援たすけあい・ライフサポーターの養成・派遣事業の運営
生活支援の新たな担い手の養成講座を開催し、受講後の活動を支援した。

ア 「たすけあい・ライフサポーター活動支援講座」(5期)の開催(5名受講)

11月22日(木)～30日(金)座学

12月10日(月)～H31.1月14日(木)ヘルパー同行実習

イ 1～5期受講修了生による「たすけあい・ライフサポーターえがお会」(会員51名)の定例会、研修会等、その活動を支援した。

ウ 能美市の介護予防・日常生活支援総合事業「訪問型サービスB」を受託し、依頼に応じて「たすけあい・ライフサポーター」を派遣した。(実利用者数8名 派遣回数 延べ254回)

◆他の福祉施設や団体に事務局職員等が参加、福祉、介護の課題の検討、組織運営への支援、事例報告等を行った。

○理事・監事・評議員関係

- ・社会福祉法人石川県社会福祉協議会
- ・社会福祉法人湯寿会
- ・社会福祉法人陽翠水
- ・社会福祉法人なごみの郷

○各種行政計画・委員会委員関係

- ・石川県社会保障審議会（石川県）
- ・石川県防災会議（石川県）
- ・能美市自立支援協議会、定例支援会議、運営会議（福祉課）
- ・能美市虐待防止協議会、専門部会（福祉課）
- ・能美市自殺防止対策地域連絡協議会（福祉課）
- ・能美市手話言語・障がい者等コミュニケーション促進検討委員会（福祉課）
- ・能美市生活困窮者支援調整会議（福祉課）
- ・能美市地域包括支援体制構築会議（のみ共）（我が事・丸ごと推進課）
- ・能美市地域包括ケアシステム構築のための専門部会「在宅医療・介護連携推進」（「メモリー・ケア・ネットワーク能美」）（我が事・丸ごと推進課）
- ・能美市介護保険運営委員会（介護長寿課）
- ・能美市子ども・子育て会議（子育て支援課）
- ・能美市子ども児童専門部会（生涯学習課）
- ・能美市地域力創出支援事業審査会（地域振興課）
- ・コミニケア緑が丘運営推進会議（グリーンケア芳珠）

1. 総括

開設当初から現在に至るまで、依頼会員は4.6倍に増えたのに対し、協力会員の増加率は、その半分以下にとどまっている。需要があるため、利用会員は年々伸びているが、提供会員は伸び悩んでいる。また、依頼会員の増加と同時に、依頼内容にも移り変わりが出て来ており、困難なケースも増えてきているため、預かる協力会員の手配に苦慮する場合もある。

協力会員の増加を目的に、例年、市広報、市内施設でポスター掲示やチラシの配布などで周知を行ったり、これまで、年1回だった会員向けの講習会を、平成29年度から、前期・後期の2回に増やすなどしているが横ばいの状況が続いている。

ファミサポ事業は、協力会員がいなければ成り立たない事業であるため、多様なニーズを受けとめるには、まずは協力会員の増員が不可欠と考える。今後も地域とのつながりを持つ機会と考え、工夫・努力に努めたい。

2. 事業状況

- ① 会員の募集・登録 相互援助活動の調整
- ② 講習会・フォローアップ研修会等の開催
- ③ 会員交流会の開催
- ④ ファミサポ通信の発行（年1回）

3. 活動状況

① 登録会員数の年度別推移



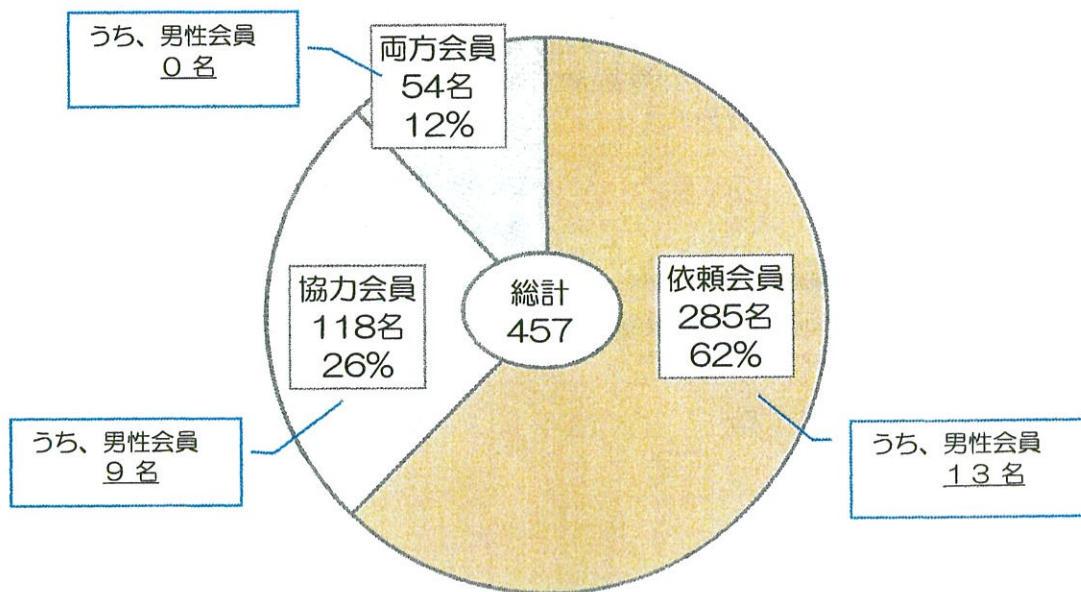
	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
依頼会員	53	143	202	236	256	262	256	266	283	293	285
協力会員	62	68	71	72	80	68	67	85	79	102	118
両方会員	16	41	58	63	62	68	70	69	70	61	54
合 計	131	252	331	371	398	398	393	420	432	456	457

② 会員割合

現在、会員数は 457 名。

もっとも多いのが、依頼会員の285名（62%）で割合は年々増加している。協力会員は118名（26%）で、今年度、昨年度と増加しているが、これは、対象児童が中学生となり、依頼会員から協力会員に登録を変更したことが理由にあげられる。また、両方会員も、54名（12%）であり、協力会員・両方会員共に依頼会員の半数にも達しておらず、横ばいの状況が続いている。

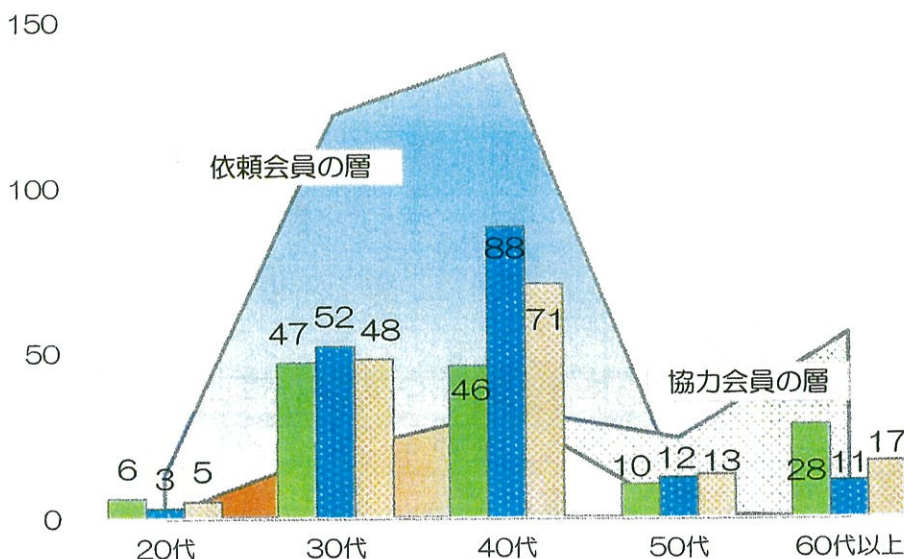
また、男性会員は、依頼会員13名（全体の3%）協力会員は9名（全体の2%）にとどまっている。



③ 地区別・年代別会員数

年代別のグラフで見ると、30代40代の会員数は多いが、依頼会員が全体の半数を占めており、協力会員は、全体の2割程で、年齢の高い層に集中していることがわかる。地区別での会員数は、根上地区(137名 30%) 寺井地区(166名 36%) 辰口地区(154名 34%)で、ほぼ均等である。

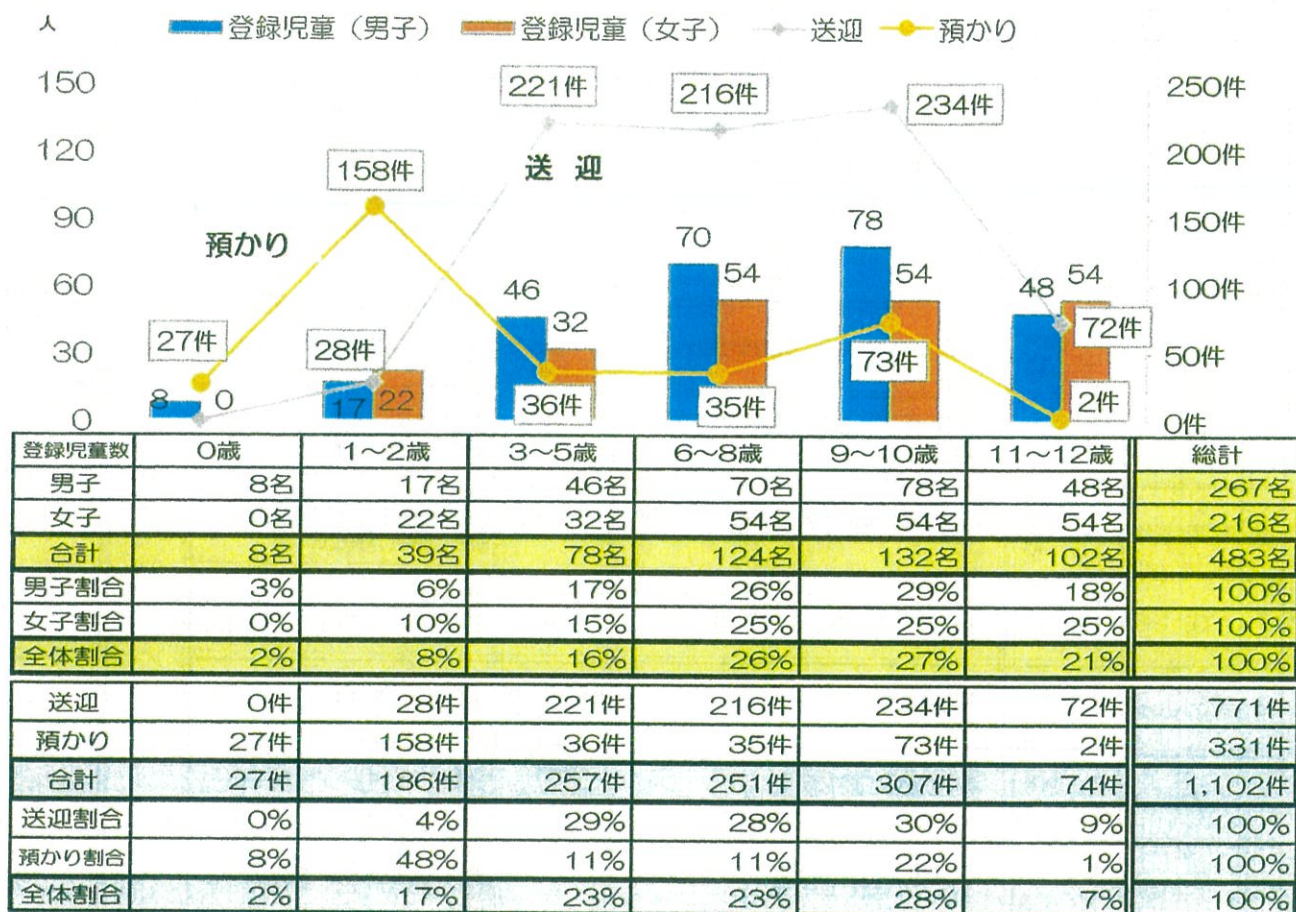
人 ■ 根上地区 ■ 寺井地区 ■ 辰口地区



会員種別	地区	20代	30代	40代	50代	60代以上	総計
依頼会員	根上地区	6	39	31	2		78
	寺井地区	3	42	68	6		119
	辰口地区	4	41	41	2		88
協力会員	根上地区		3	10	7	28	48
	寺井地区		1	12	6	11	30
	辰口地区		1	11	11	17	40
両方会員	根上地区		5	5	1		11
	寺井地区		9	8			17
	辰口地区	1	6	19			26
総計		14	147	205	35	56	457

④ 子どもの年齢構成及び依頼件数

子どもの年齢構成をみると、小学1年生から4年生までの割合が全体の約6割を占めている。依頼件数の割合は、9～10歳 307件（28%）、3～5歳 257件（23%）、6～8歳 251件（23%）が上位であり、3歳以下は、預かりが大半を占めているが、3歳以上は、送迎が急激に増加していることがわかる。依頼内容の上位は「障害を持つ子供の送迎」、「保育園・幼稚園の送迎」、「学童クラブの送迎」となっている。



⑤ 活動内容別件数

活動内容	平成29年度 総計①	平成30年度 総計②	差 (②-①)	備考
保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	99	74	▲ 25	
保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	82	100	▲ 18	
保育園・幼稚園の送迎	672	249	▲ 423	対象児童が保育園バスを利用できる年齢になった
学校の送迎	21	50	▲ 29	
学校の放課後の預かり	0	0	0	
学童クラブの送迎	121	217	▲ 96	定期的（月4回程度）な依頼が新規であった。（帰宅後は、自宅で曾祖母と過ごしている）
学童クラブの迎え及び帰宅後の預かり	81	73	▲ 8	
子供の病後児の送迎	0	0	0	
子供の病後児の預かり	0	0	0	
子供の習い事等の場合の援助	102	26	▲ 76	定期的に利用されていた方が、家族の送迎が可能となった
保育所・学校等休み時の援助	0	0	0	
保護者等の就労の場合の援助	19	6	▲ 13	
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	0	0	0	
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子供の学校行事の場合の援助	0	0	0	
保護者等の外出の場合の援助	6	30	▲ 24	
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	12	0	▲ 12	
障害を持つ子供の送迎	157	255	▲ 98	新規依頼が増えた 利用人数 (H29) 3名 ⇒ (H30) 6名
障害を持つ子供の預かり	11	0	▲ 11	
その他の送迎	87	22	▲ 65	
その他の預かり				定期的に利用されていた対象児童が、保育園に入園した
合 計	1,470	1,102	▲ 368	

⑥ 協力会員養成講座及びフォローアップ研修

新規会員及び既存会員向けに、子育て支援に関する適切な知識や技術を学ぶ機会を設け、養成講座を年2回開催。安心・安全な支援活動の広がりにつなげている。

(※平成29年度より、救命救急講習は、必須科目となっている。)

	No.	前期	後期	時 間	内 容	場 所	講 師	託児の有無	参加人数
養成講習	1	7/17	10/31	10:00~12:00	子育ての社会的支援について	能美市ふれあいプラザ	金城大学 短期大学部 幼児教育学科 教授 和泉 美智枝 氏	有	9人
	2	7/18	10/31	10:00~12:00	子育て支援の意義と役割について		石川県南加賀保健福祉センター 所長 沼田 直子氏		16人
	3	7/19	12/21	10:00~12:00	子どもの心と身体の発達と その問題について				11人
	4	7/20	10/29	10:00~12:00	障がいのある子どもとの関わり方について		子ども発達支援センター職員		13人
	5	7/24	10/29	10:00~12:00	育児の支援について(講義及び実習) (沐浴のさせ方、ミルクの与え方)		能美市健康推進課 保健師及び助産師		7人
	6	7/25	12/21	10:00~12:00	小児看護と感染症の基礎知識について		石川県南加賀保健福祉センター 所長 沼田 直子氏		10人
	7	7/26	1/30	10:00~12:00	子どもとの関わり方について		子ども発達支援センター職員		12人
	8	7/27	10/30	9:00~12:00	救命救急講習会	能美市防災センター	能美市消防本部職員		16人
	9	7/30	11/30	10:00~12:00	実際の活動における 安全対策と留意点について	能美市ふれあいプラザ	能美市ファミリー・サポート・センター 職員		14人
	10	—	11/29	10:00~12:00	子どもの栄養と食生活		能美市健康推進課 栄養士		6人
実習	11	12/18	2019/3/2	10:00~14:00	「絵本カフェ」での実習	G・Hills		無	2人
	12	2019/3/2				能美市ふれあいプラザ			1人
	13	2019/1/31		10:00~13:00	【協力会員 フォローアップ研修】 子どもの食育について(調理実習)	サンテ調理室	能美市健康推進課 栄養士		6人

延べ人数 123人

※ 実人数 25人

(うち、新規会員 4人)

⑦ 会員 交流会及び普及啓発

ファミリー・サポート・センター及び、市内3地区で開催している親子サロンの周知・交流を目的に、毎年開催。

内 容	日 時		場 所	参加人数
ミニ運動会	6/13(火)	10時~11時15分	寺井中央児童館	116名
絵本カフェ (春まちぽかぽかプロジェクト)	6/9(土)	10時~14時	能美市子育て支援センター	70名
	12/8(土)		共生型福祉施設 G・Hills	188名
	3/2(土)		能美市子育て支援センター	120名

【能美市寺井あんしん相談センター（寺井高齢者支援センター）の運営業務報告】

1. 総括

高齢者をはじめ、障がい者や生活困窮者などの総合相談窓口の拠点となれるよう、高齢者支援センターの事業の運営に加えて、多機関の協働による包括的支援体制構築事業の運営を能美市より受託し、寺井地区をモデル事業として相談に応じ、支援した。また、自立支援・重症化予防を基本とした介護予防プランの作成及び、能美市地域包括ケアシステムの構築を推進した。

2. 事業状況

① 総合相談支援業務

- ア 高齢者をはじめ、障がい者や生活困窮者などの相談に応じ、関係機関に繋いだ。
- イ 複数の課題を抱える世帯に対し、関係機関と連携、課題を共有する共に、必要に応じてケア会議を開催し、課題解決に向けての支援の方向性を検討した。

② 権利擁護業務

- ア 成年後見制度・権利擁護に関する相談に応じ、成年後見制度の利用やくらしサポートセンターのみと連携し福祉サービス利用援助事業の利用に繋げた。
- イ 高齢者虐待については、相談件中、1件を能美市の虐待判定会議に繋ぎ、虐待対応計画に基づいて支援した。また、虐待通報がされにくい中、総合相談の段階からアンテナを立て、早期発見を心掛け、成年後見制度の相談等も併せて、権利侵害の防止や早期対応に努めた。

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援

- ア 各地区高齢者支援センターが連携し、ケアプラン会議を開催、自立支援を目的としたプランの検討及びプランを作成する介護支援専門員に対し支援・指導をした。また、介護支援専門員が相談しやすい対応を心がけ、困難事例を一人で抱え込まないよう支援し、処遇困難事例検討会に繋げるなどした。
- イ 地域における連携・協働の体制づくりのため、地域ケア会議を手法とし、個人や地域の課題を発見し、地域づくりに繋がるよう話し合いをした。また、民生委員や町会長等の地域の方と、医療や介護の専門職、CSW など多職種の関係機関とのネットワーク作りを推進した。

④ 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント支援業務

- ア 要介護者や事業対象者が、主体的に介護予防・自立支援に取り組むために、自己選択、決定できるよう配慮しながら介護予防プランを作成し、支援した。
- イ 一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業である、「おげんき倶楽部のみ」や「のみ活倶楽部」、地域で開催される「いきいきサロン」等にも出向き、参加者の状況を把握するとともに、介護予防の普及啓発に取り組んだ。

⑤ 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み

- ア 地域生活医療コーディネーター、第二層生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、地域ケア会議に各担当職員を配置すると共に、在宅医療と介護連携の充実を推進する専門部会「メモリーケア・ネットワーク能美」、地域での支え合いを検討する専門部会「能美市生活支援サービス推進協議体」に参加し、積極的に課題に取り組んだ。
- イ 寺井地区を単位とした日常生活圏域会議を1件、町会や関係機関を単位としたエリア・関係機関会議を4件、個別のケースに関する関係者が参加するネットワーク会議を30件開催した。日常生活圏域会議では寺井地区における大雪時の医療面について話し合いをした。今回、明らかになった課題については、来年度も引き続き課題解決に向けて取り組みたい。
- ウ 地域での出前講座5件、認知症サポーター養成講座1件を開催し、認知症への理解や介護予防に対しての啓発、理解を広げた。

⑥ 職員の資質向上

石川県、能美市、各職能団体等が実施している研修会に積極的に参加した。研修参加後は復命書を回覧することでセンター職員全員が共有し、必要な知識や技法等の取得に努めた。

【地域包括的支援体制構築事業における相談支援包括化推進員の業務報告】

1. 総括

複合的な課題を抱える世帯を把握し課題解決に向け、市域（第1層）に相談支援包括化推進員を配置し、複合課題の把握、関係機関との連絡調整、研修会等を開催し、包括的相談支援体制の構築を推進した。

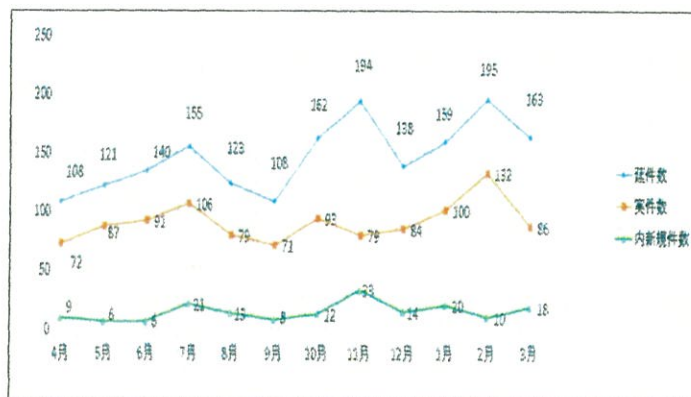
2. 事業状況

- ①初回相談窓口である寺井あんしん相談センターと相談内容を共有し、複合的な課題を抱える世帯に対し、面談やアセスメントを行い、支援した。
- ②寺井あんしん相談センター地区担当職員と連携し、複合的な課題を抱える世帯の進捗状況の把握を行い、管理台帳を作成した。
- ③寺井あんしん相談センターが主催する地域ケア会議に参加し、各関係機関とのネットワークの構築に努めた。
- ④平成31年度の地域包括的相談支援体制に移行できるよう、関係機関に対し研修会の企画・実施し、各地区高齢者支援センター、寺井あんしん相談センター職員や障がい者の相談支援員と連携を図った。
また、研修会参加者からの意見やアンケート結果を検証し、市担当課と調整を重ねながら、平成31年度地域包括的支援体制構築にむけたデータを整理した。

平成30年度 能美市寺井あんしん相談センター（寺井高齢者支援センター） 実績報告

1. 実態把握件数（高齢者）

	延べ件数	実件数	新規件数
4月	108	72	9
5月	121	87	6
6月	134	91	6
7月	155	106	21
8月	123	79	13
9月	108	71	8
10月	162	93	12
11月	194	79	33
12月	138	84	14
1月	159	100	20
2月	195	132	10
3月	163	86	18
合計	1,760	1,080	170



2. 実態把握・相談の状況（高齢者）

	窓口	電話	訪問	その他	合計
4月	30	39	36	3	108
5月	36	43	40	3	122
6月	44	43	40	7	134
7月	42	65	38	10	155
8月	17	67	36	3	123
9月	22	55	31	0	108
10月	35	74	49	4	162
11月	45	70	70	9	194
12月	31	65	38	4	138
1月	45	65	41	7	158
2月	34	102	56	3	195
3月	33	82	41	7	163
合計	414	770	516	60	1,760

3. 地域活動支援・出前講座の状況

	地域活動支援	出前講座	認知症サポーター養成講座
4月	3	0	0
5月	3	0	0
6月	5	2	0
7月	3	1	0
8月	4	1	0
9月	5	0	0
10月	8	1	0
11月	4	0	0
12月	6	0	0
1月	1	0	0
2月	7	0	0
3月	3	0	1
合計	52	5	1

4. 地域ケア会議

	ケアプラン会議回数	処遇困難事例検討会	日常生活圏域会議	エリア会議	ネットワーク会議
4月	10	0	0	0	0
5月	10	0	0	0	0
6月	15	1	0	0	2
7月	8	0	0	0	1
8月	11	0	0	0	2
9月	10	0	1	0	0
10月	12	0	0	0	1
11月	11	1	0	1	8
12月	9	0	0	0	2
1月	14	0	0	2	3
2月	11	0	0	0	2
3月	20	0	0	1	9
合計	141	2	1	4	30

5. 連絡調整業務の状況

	介護認定申請受付	高齢者福祉に係る受付	住宅改修・福祉用具に係る受付
4月	14	14	3
5月	18	7	8
6月	26	6	3
7月	25	3	3
8月	10	1	4
9月	19	14	6
10月	18	4	12
11月	18	6	3
12月	17	1	2
1月	21	1	1
2月	18	10	3
3月	17	24	4
合計	221	91	52

6. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

	地域生活 医療コーディネーター	1・2層生 活支援コー ディネーター	認知症地 域支援推 進員	地域ケア 会議担当 者会議	メモリーケア・ ネットワーク能 美
4月	0	0	0	0	1
5月	0	0	0	0	4
6月	0	0	0	0	4
7月	1	2	0	1	4
8月	0	1	0	1	3
9月	0	1	1	1	4
10月	0	1	1	1	3
11月	0	1	1	1	4
12月	0	1	1	1	2
1月	0	1	0	1	4
2月	0	2	0	0	2
3月	0	1	1	1	0
合計	1	11	5	8	35

7. 介護予防ケアマネジメント ケアプラン作成数

	直営プラン	外部委託 プラン	合計
4月	10	13	23
5月	13	10	23
6月	17	12	29
7月	15	13	28
8月	18	13	31
9月	15	13	28
10月	13	15	28
11月	12	14	26
12月	11	13	24
1月	16	12	28
2月	18	12	30
3月	17	11	28
合計	175	151	326

8. 介護予防ケアマネジメント 直営分内訳

	スマイルヘル パー・スマイル デイサービス	健康ライフ教 室・健康ライ フ訪問リハビリ	あんしんサ ポーター・は つらつデイ サービス	たすけあい サポーター・ほ がらか会	合計
4月	2	2	2	4	10
5月	1	5	2	5	13
6月	1	8	4	4	17
7月	1	7	3	4	15
8月	0	9	4	5	18
9月	0	9	3	3	15
10月	1	6	3	3	13
11月	1	5	2	4	12
12月	1	5	2	3	11
1月	1	7	2	6	16
2月	2	8	2	6	18
3月	2	9	2	4	17
合計	13	80	31	51	175

9. 介護予防支援 ケアプラン作成数

	直営プラン	外部委託 プラン	合計
4月	15	35	50
5月	15	37	52
6月	14	39	53
7月	14	40	54
8月	14	37	51
9月	17	35	52
10月	17	35	52
11月	18	37	55
12月	19	36	55
1月	16	37	53
2月	15	36	51
3月	15	36	51
合計	189	440	629

10. 障がい者や生活困窮者の相談の状況

	業務内容	件数
1	総合相談（延）	213
2	総合相談（実）	105
3	多職種・多機関への連絡調整	57
4	ケース会議等の開催・参加	14

11. 相談支援包括化推進員の活動実績

	業務内容	件数
1	面談・アセスメント	12
2	進捗状況の確認	52
3	地域ケア会議 参加	10
4	包括的相談支援体制構築事 業における研修会実施	7
5	多機関との連絡調整 (研修会の企画・調整含む)	43
6	各種関係機関会議、 研修会等への参加	13

【くらしサポートセンターのみ事業報告】

1. 総括

生活困窮者自立支援事業を軸として、福祉サービス利用援助事業、生活福祉資金貸付事業、弁護士無料相談等を行い、社会的孤立者や経済的に困窮する恐れのある者が困窮状態から早期に脱却することを目標に、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援を実施した。

相談支援員は、自立相談支援事業従事者養成研修をはじめ、各種研修に積極的に参加し、スキルアップに努めると共に、様々な機関との連携構築を図り、支援の幅の拡大に繋げることができた。

ふれあい相談員は、地域での見守り支援として、地域福祉委員会（町会・町内会長や民生委員・児童委員等）と連携して、継続したアウトリーチを行った。生活困窮者の早期発見につながるような情報の収集や地域の生活課題の把握に努め、地域住民や民生委員児童委員と共に、市営住宅の入居者の把握能美資金の返済滞納者等、生活困窮状態が気になる世帯を訪問し、状況確認を進めた。

2. 事業状況

①生活困窮者自立相談支援事業

- ・困りごとに関する相談に幅広く応じ、就労支援を行う等、自立に向け本人の状況に応じた相談支援を実施した。9月から、毎月、支援調整会議を開催し、関係者による検討、情報共有、連絡調整などを行った。

②福祉サービス利用援助事業

- ・判断能力の低下した方が、地域社会で安心して生活できるように、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理等の支援を実施した。また、必要に応じて、多機関連携を図った。

③生活福祉資金貸付事業

- ・低所得者、障害者または高齢者に対し、資金の貸付と必要な相談支援を実施した。

④弁護士・行政書士の無料専門相談等事業

- ・日常生活の中で起きる法律に関わる問題について、弁護士や行政書士が無料で相談に応じた。

⑤心配ごと相談所の運営

- ・日常生活上のあらゆる相談に応じ、適切な助言、指導を行い住民福祉の増進を図った。

平成30年度 くらしサポートセンターのみ 実績報告

① 生活困窮者自立相談支援事業

◎プラン作成件数 3件

◎相談件数

	新規相談件数	相談延べ件数
4月	2件	2件
5月	2件	10件
6月	5件	20件
7月	6件	11件
8月	5件	20件
9月	6件	19件
10月	4件	28件
11月	2件	16件
12月	4件	22件
1月	4件	20件
2月	2件	22件
3月	1件	4件
合計	43件	194件

◎相談経路

相談先	人数
本人	19名
家族	2名
民生児童委員	1名
相談支援員（障害）	3名
ケアマネ	2名
高齢者支援センター	11名
病院	1名
行政	4名
合計	43名

◎男女別内訳

男性	25名
女性	18名
合計	36名

◎年代別内訳

20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳～	不明
1名	1名	2名	10名	5名	15名	9名

◎相談対応状況

・継続支援件数 19件

・各制度等につなげた状況

就労支援	4件	生活福祉資金	2件
生活保護	5件	行政書士相談	1件
住宅確保給付金	1件	消費生活支援センター	2件
福祉サービス利用援助事業	6件		

*その他 各あんしん相談支援センター、ケアマネ、相談支援員等を連携を図っている。

② 福祉サービス利用援助事業

◎生活支援員人数 8名

◎契約件数

認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	合計
14件	3件	8件	2件	27件

③ 生活福祉資金貸付事業

◎能美市福祉資金 利用件数 9件

◎石川県生活福祉資金

資金の種類	件 数
福祉資金・教育資金・緊急小口資金	44 件
総合支援資金	20 件
離職者支援資金	3 件
臨時特例つなぎ資金	2 件
合 計	69 件

実相談件数	22 件
延相談件数	93 件

④ 弁護士・行政書士の無料専門相談等事業

◎弁護士無料相談

実施回数	24 回（毎月 2 回開催）
利用者数	91 名
相談件数	142 件

◎行政書士無料相談

実施回数	5 回（隔月 1 回開催）
利用者数	15 名
相談件数	20 件

◎行政書士無料講習会

実施回数	6 回（隔月 1 回開催）
参加者数	30 名
テーマ	・成年後見制度ってなんだろう ・親族のための成年後見実施講座 ・成年後見制度を理解しよう

⑤ 心配ごと相談所の運営

	根上地区	寺井地区	辰口地区	合 計
4 月	2 件	0 件	1 件	3 件
5 月	3 件	0 件	1 件	4 件
6 月	3 件	0 件	2 件	5 件
7 月	0 件	0 件	0 件	0 件
8 月	0 件	0 件	0 件	0 件
9 月	3 件	0 件	2 件	5 件
10 月	1 件	3 件	2 件	6 件
11 月	0 件	2 件	3 件	5 件
12 月	0 件	1 件	1 件	2 件
1 月	0 件	1 件	1 件	2 件
2 月	1 件	0 件	2 件	3 件
3 月	1 件	1 件	2 件	4 件
合 計	14 件	8 件	17 件	39 件

【能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所事業報告】

1. 総括

主任介護支援専門員 2 名の更新研修をはじめ、各種研修に参加することでケアマネジメント技術や資の向上にも繋がり、30 年度から始まった能美市によるケアプラン点検において、事業所として高い評価を得ることができた。

その他、今年度より各高齢者支援センターや寺井あんしん相談センターで開催される地区エリア会議にも積極的に参加し、地域の方々や各種関係機関と連携を図ったり、介護支援専門員実務研修の実習生の受入を行ったことで、市及び県の介護保険行政にも協力することができた。

2. 運営状況

目標としていた顧客人数の獲得ができず、売上の達成に至らず、不足分を繰越金で調整することになった。

その要因として、当事業所は困難な事例を多く受入れしているほか、各種研修会や各地区のエリア会議への積極的な参加、ケアプラン点検、そして、介護支援専門員の実習生を受け入れたことにより時間がかかったこと等が考えられる。

今後は、社会福祉協議会の事業所としてケアマネジメントの更なる質の向上と地域や関係機関との連携を目指しつつも、安定した事業所運営にも取り組んでいきたい。

3. 事業状況

① 居宅介護サービス計画の作成

- ・ 特定事業所加算（Ⅲ）の算定要件を満たし、体制を確保した。
- ・ 事業所内会議を毎週、定例で開催し、利用者に関する情報共有や留意事項に係る伝達を行なった。
- ・ 24 時間携帯電話を輪番制で所持し、いつでも連絡が取れる体制を確保し、必要に応じ相談に対応した。

②介護予防プランは、介護給付でのプラン作成に支障のない程度で受け入れた。

③要介護認定調査をコンスタントに実施した。

④事業所の資質向上を図った。

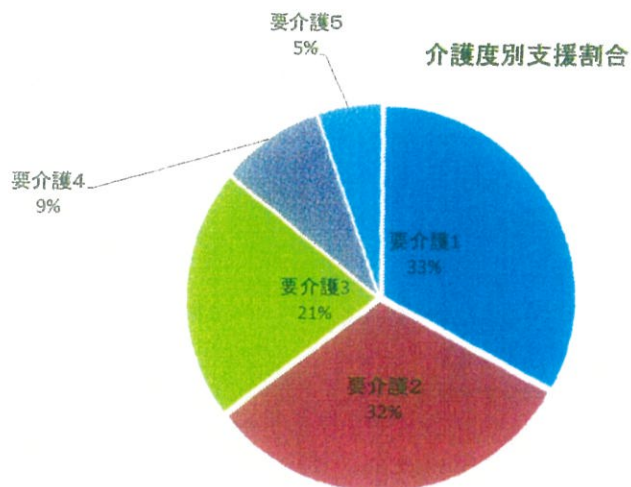
- ・ 満足度調査の実施、自己チェックリストの活用など行い、介護サービスの情報を公表した。
- ・ 研修計画を立て、必要な研修や地区エリア会議に積極的に参加した。
- ・ 能美市によるケアプラン点検では、指摘事項が少なく、高い評価を得た。

平成30年度 能美居宅介護支援事業所 実績報告 【正規職員3名】

<介護保険事業>

介護保険の要介護の方や家族の要望に基づき、居宅介護サービス月間計画（ケアプラン）を作成（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数	ケアマネー1人 当たりの件数
作成件数	98	97	95	89	88	83	85	81	82	72	64	81	1,015	28.2
月別介護度支援内訳														
要介護1	29	33	31	30	29	29	29	27	27	23	20	26	333	
要介護2	33	30	28	28	28	25	27	26	24	23	24	27	323	
要介護3	22	21	23	21	20	16	18	17	16	14	12	16	216	
要介護4	9	8	8	6	7	8	8	7	8	8	4	8	89	
要介護5	5	5	5	4	4	5	3	4	7	4	4	4	54	



<受託事業>

※住宅改修業務：依頼なし

予防プラン作成

	件数
4月	4
5月	3
6月	3
7月	5
8月	4
9月	4
10月	4
11月	4
12月	4
1月	4
2月	3
3月	3
合計件数	45

認定調査受託

	件数
4月	6
5月	3
6月	2
7月	4
8月	5
9月	6
10月	3
11月	4
12月	3
1月	1
2月	3
3月	4
合計件数	44

